

春風秋霜

12月号

令和2年12月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 山村都市交流センターさまを訪問して

11月11日(水)に教育委員と笹間を訪問して、陶芸作品の窯出しを見学するとともに、笹間小中学校閉校後の地域活性化について意見交換をしました。

笹間地区では国際陶芸祭が隔年で開催され、昨年は世界21ヶ国から68人もの外国人陶芸家と3500人の参加者を集めています。このような大規模な国際的なイベントができるようになったのは、国際的な陶芸家と縁があったこと、やらない理由を考えるよりやってみようとする地域の方がいたこと、両者をつなぐコーディネーターがいたからだそうです。

また、多くの外国人から笹間を褒めてもらったことも、地域の賛同を大きくしたということです。フランス人のジョセフィンさんが川霧のかかった景色をみて「素敵」「素晴らしい」と繰り返し言うので、地域の方もその良さを認識するようになったという話がありました。地域にとって当たり前になっていることでも、外から来た人には大きな魅力になるということです。また、「無い物を探し作り出すより、ある物の良さを発信することが大切」ということも話題になりました。

島田市では全校でコミュニティ・スクールを進めています。外部の視点で学校を見てもらうことは大切だと思います。見慣れている当たり前の中に大きな財産が見つかるかもしれません。見つかったものを発信することも大切にしてほしいと思います。



焼成中の穴窯



窯出しされた作品

2 ウィンザー効果について

ある本を読んでいたらウィンザー効果についての説明がありました。ウィンザー効果とは、「第三者から聞いた情報は、影響力が増す」ということです。具体的には、「あなたは〇〇が素晴らしい」と直接褒められるより、「Aさんがあなたは〇〇が素晴らしいと褒めていたよ」と言われた方が喜びや満足度が高いということです。

一方、マイナス面でも同様で、「あなたは〇〇を直した方がよい」と直接言われるより、「Aさんがあなたは〇〇を直した方が良いと言っていた」と伝えられる方がダメージは大きいという理論です。

Aさんという第三者が関係することにより、Aさんは私の良いところを周囲に伝えているということになります。逆の場合は複数の人に自分のマイナス面が拡散されていることになり、本人に与える影響が大きいということです。

子供を褒めるときには、担任が直接褒めるだけでなく、第三者を上手に使うことが必要だと思います。学年主任や管理職から褒めてもらう場を上手に作ってほしいと思います。

3 島田税務署からの感謝状について

市教委は、11月9日（月）に島田税務署長より感謝状をいただきました。租税教室や税の作品募集などへの長年の協力に感謝してのものです。この感謝状は、市教委が評価されたのではなく、市内の小中学校での取組が評価されたものであると思っています。

例年、税の作品募集には市内の学校から多くの作品応募があり、習字や作文・ポスターなど、分野別の表彰も行われています。昨年度は附属島田中学校の田代さんが国税庁長官賞を受賞しています。本年度は金谷中学校の秋山さんが国税庁長官賞を受賞しました。税務署長は、県内にある大きな税務署管内を差し置いて、2年連続の長官賞受賞を快挙と喜んでいました。

署長は、本年のコロナ禍における確定申告が大きな課題になっていると話していました。申告作業の三密を避けるため、人数制限が行われるそうです。ふるさと納税に係る寄付金控除や医療費控除等、確定申告を行う必要がある人は、国税庁HPにアクセスし、確定申告書を作成し、マイナンバーカードを使ってe-TAXでの提出をお願いしたいそうです。早目の準備が必要だと思います。

肘かけ椅子

原 喜恵子 教育委員

「穏やかで優しさに包まれた時間」

数か月前、偶然目にした番組「駅ピアノ・空港ピアノ・街角ピアノ」のシリーズに心が惹かれ、最近では新聞テレビ欄を覗いては今日も放送されるかなと心待ちするようになりました。

外国の駅や空港の空きスペースにピアノが置かれ、そこを歩きかう人たちが気軽に曲を奏でる姿が定点カメラに映し出されます。幼い子供から90歳を超える老人まで。職業もサラリーマンや警備員、清掃員など実に様々な人たちが演奏を楽しんでいます。

私が驚いたのは独学でピアノを弾けるようになった人や、祖父母に教えてもらったという人が多いこと。そして、今の気持ちや様子を即興で奏でる人が多いこと。私の心の中では、ピアノ演奏は指導者の下で学ぶものであり、既成の曲を上手に弾けるようになることが大切であるという固定観念を持っていました。しかし、テレビに映し出される人たちは、「音楽はどこの国でも共通で、言葉が無くても自由に思いを伝えるもの。落ち着かない日常や嫌なことも忘れて心を癒してくれるもの」と語り、実に楽しそうに表情豊かに演奏しています。

この番組を一緒に見ていた70歳になる夫が、何を思ったのかそれまで一度も触ったことのないピアノに突然向かい始めました。「楽譜が苦手なお父さんのためのピアノ塾」なる本を開き、片手でゆっくりゆっくり練習をし始めました。それを見ていた6歳になる孫も一緒にピアノをたたき始めました。

テレビ番組に触発され、たどたどしくてもピアノの音が聞こえるようになった我が家には、ほっこり温かい空気が流れ、穏やかで優しさに包まれた時間が生まれたような気がします。